

牛群検定通信 No148

～ 夏場の繁殖対策 ～

夏は暑く、暑いときは良い発情もなかなか来ないため、夏場の繁殖を諦めている方はいませんか。しかしながら、他の農家の受胎率が悪いときに受胎率が良くなれば、メリットはかなりあるのではないのでしょうか。そこで、今回は夏場の受胎率向上対策について説明いたします。

夏場に受胎率が低下する要因は暑さですが、具体的に暑さがどのように繁殖成績を低下させるのかをきちんと理解している方は少ないと思います。ですから、暑さがどのように作用し、繁殖成績を低下させるのかを理解して、対策をしっかりと行うことで繁殖成績を向上させていきましょう。

暑さは冷涼な気候を好む牛にとって大きなストレスとなり、ストレスはカルシウムの吸収率を大きく低下させます。カルシウムの吸収率が低下すると牛の体内はカルシウム不足となり、飼料摂取量が低下し栄養不足となり、繁殖に必要な栄養が足りなくなり、発情が弱くなるとともに、卵子の発育が悪くなり受精しにくくなったり、子宮での着床が悪くなったりして、受胎率は大きく低下します。ですから、カルシウム不足を補い、栄養不足にしないことが夏場の繁殖成績を向上させる要点となります。

そこで、夏場はカルシウムを増給しなければならず、搾乳牛では炭酸カルシウムを増やすことになります。夏場に必要な炭酸カルシウム量は乳量や飼養環境にもよりますが、最低でも1頭当たり200～300g程度は必要と考えられ、皆さんが思っておられる量よりかなり多くの量が必要です。ただ、炭酸カルシウムは嗜好性が余りよくないため、TMRなどで一度に増加させるとTMR自体の採食量が減少し、栄養不足を引き起こすなど本末転倒の結果を引き起こしますので、何段階かに分けて増加させる必要があります。一方、分離給与の場合は一度に大量の給与を行っても牛は採食しませんし、また、摂取したとしても吸収が追い付きませんので、出来るだけ炭酸カルシウムの給与回数を増やして給与する必要があります。また、炭酸カルシウムは嗜好性が余りよくないため単品で給与しても採食しない場合が多く、嗜好性の良い配合飼料や穀類などと一緒に給与することが採食量を増加させる要点となります。

カルシウム給与を増加し、飼料摂取量をできるだけ確保したとしても、夏場はどうしても繁殖に必要な栄養は不足しがちになります。そこで、必要となるのはデンプンや糖です。牛の体内で糖が不足すると、黄体ホルモンが低下し、発情も弱くなることが知られていますし、卵子の発育も低下し、受精しにくい状況となるとともに、糖不足によって着床し難い状況となります。

このため、糖の原材料となるデンプンの給与量を増加させる必要があります。更に最近では糖を直接給与する方法もあります。廃糖蜜等を利用した飼料を夏季に用いれば、嗜好性も高く採食量も増加することが期待できます。ただし、ルーメンアシドーシスの危険もあるため、適正量を遵守することが必要です。特に夏季は十分な飲水を確保することが予防にも繋がります。

繁殖は酪農経営にとって、最重要な管理の要点です。特に夏場の受胎率の向上は経営に大きな影響を与えますので、チャレンジしてみてください。